対話が、価値になる。



Claude Codeと音声入力で実現する、次世代のコンテンツ制作ワークフロー

少人数組織の「発信できない」を解決する実践的アプローチ

NotebookLM

外部発信は、企業の成長に不可欠なエンジン。しかし…



1. 採用ブランディング

魅力的なカルチャーを発信し、優秀な人材を引きつける。



2. リード獲得

専門知識を共有し、潜在顧客との信頼を築く。



3. 業界での認知度向上

ソートリーダーシップを確立し、市場での発言力を高める。

NotebookLM

「発信したい、でもできない」―
それが多くの組織の実態

* The Problem: 多くの企業が、発信の重要性を理解しつつも実行に移せていない。
* The Symptom: 立ち上げたブログが数記事で停止。年に数本しか記事を公開できない。

「書きたいネタはあるのに、
記事が完成しない」

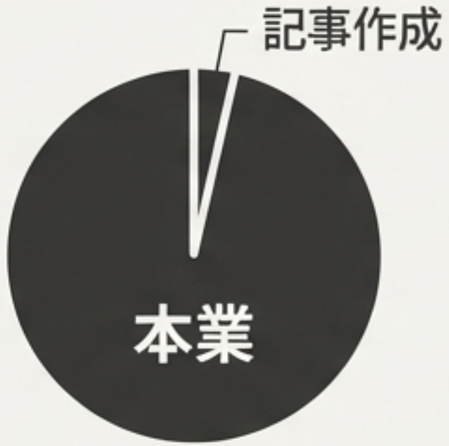
NotebookLM

なぜ、少人数組織ではコンテンツ制作が進まないのか？



リソースの壁

専任ライターを置く余裕がなく、本業との兼務が前提となる。



優先度の壁

本業（クライアント対応、開発）が常に優先され、記事作成は後回しにされる。



集中力の壁

細切れの時間では集中できず、中断からの再開コスト（**コンテキストの復元**）が非常に高い。

NotebookLM

汎用AIツールは「答え」ではなかった

1. **繰り返される指示**: 毎回「ですます調で」「この構成で」と文脈をゼロから説明する必要がある。

2. **コピー＆ペーストの罠**: AIとエディタの往復作業が、塵も積もれば大きな時間ロスになる。



3. **途切れるコンテキスト**: セッションが切れると、長い記事の継続的な執筆が困難になる。

NotebookLM

我々が本当に求めていたのは、「執筆ツール」ではなく「対話パートナー」だった



自律性

執筆ルールや文脈を自律的に理解し、一貫性を担保してくれる。



統合性

エディタ上で全てが完結し、思考を妨げるコピペ作業が不要。



親和性

思考のスピードに近い「音声」で、ストレスなくアイデアを伝えられる。

NotebookLM

解決策は、2つの技術の「完璧な相性」にあった

Claude Code
AXIS Font Std Medium



ディレクトリ全体の文脈理解：執筆ルール(`CLAUDE.md`)や過去記事を自動参照。毎回同じ指示が不要。



高いセキュリティ：入力データがモデル学習に使われないため、安心して社内ナレッジを扱える。
(SOC 2 Type II, ISO 27001準拠)

音声入力
AXIS Font Std Medium



思考の高速アウトプット：タイピングの数倍のスピードでアイデアを言語化できる。



心理的ハードルの低減：「書く」プレッシャーから解放され、「話す」気軽さでアウトプットできる。

NotebookLM

音声入力の「弱み」を、AIの「強み」が完璧に補完する

Before：音声入力の課題

えーと... 記事の...件ですが... あの... 誤変換とか

誤変換、言い淀み、フィラー（「えーと」「あの」）が多く、手動での修正が必須だった。

After：AIによる補完

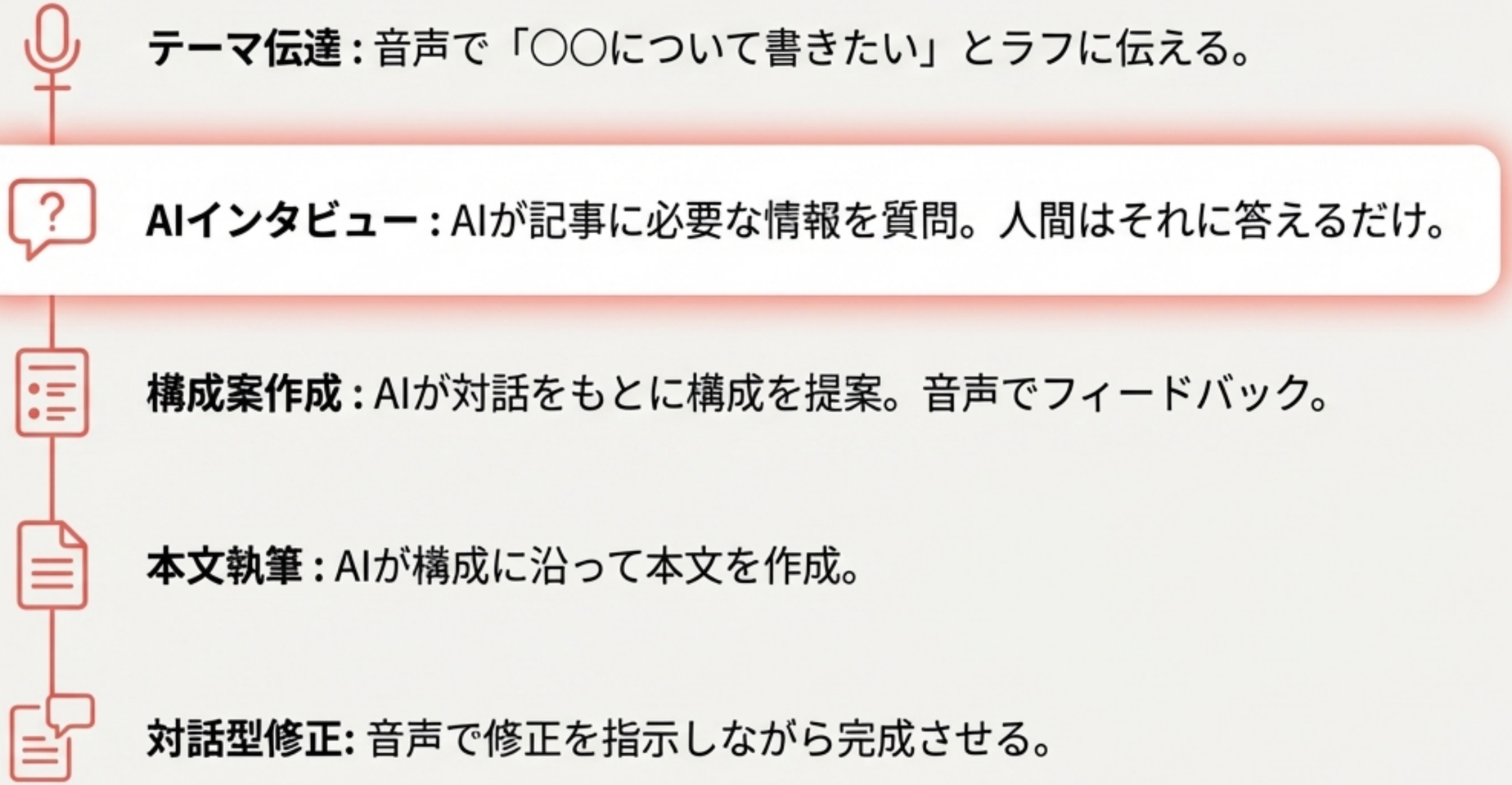
記事の件ですが、誤変換などをAIが補正します。

AIが文脈を理解し、不完全な音声を「意図を汲み取った文章」に自動で整形してくれる。

「完璧な入力」は不要に。ラフに話すだけで、洗練された文章が生まれる。

NotebookLM

発想の逆転：「私が話す」から「AIにインタビューさせる」へ



テーマ伝達：音声で「〇〇について書きたい」とラフに伝える。

AIインタビュー：AIが記事に必要な情報を質問。人間はそれに答えるだけ。

構成案作成：AIが対話をもとに構成を提案。音声でフィードバック。

本文執筆：AIが構成に沿って本文を作成。

対話型修正: 音声で修正を指示しながら完成させる。

NotebookLM

一貫性と品質を支える、2つの「仕掛け」

`CLAUDE.md`によるルール定義

文体、見出し形式、文字数などを一度定義すれば、AIが自動で準拠。

> Benefit: 毎回同じ指示が不要になり、品質が安定する。

テンプレートによる構成の統一

カテゴリ別（`/cases`、`/trends`）に`_template.md`を用意。

> Benefit: 記事の型が統一され、構成を考える時間がゼロになる。

NotebookLM

成果は、時間だけでなく「発信文化そのもの」を変えた

1/3以下

時間短縮

記事作成にかかる時間を劇的に短縮。



発信量の増加

「書けない」から「話せば書ける」へ。心理的ハードルが大幅に低下し、継続的な発信が可能に。



思考の整理

AIとの対話が、自身のナレッジを言語化・構造化するプロセスになる。

NotebookLM

残された課題と、さらなる進化の可能性

現在の制約



環境: 音声入力には静かな場所が必要。（リモートワークや個室が前提）



心理: 人前で声に出して作業することへの抵抗感。

今後の展望



モバイル環境での活用（移動中の音声メモを記事化）。



チームへのナレッジ共有と展開。

NotebookLM

このワークフローは、今日から始められます

必要なもの (What You Need)

- [x] 1. Mac標準の音声入力
- [x] 2. Claude Code（Cursor, VSCodeなど）

再現性のポイント (Key to Replication)

- `CLAUDE.md`に自社の執筆ルールを定義する。
- カテゴリごとのテンプレート（_template.md）を用意する。

“まずは1本、AIとの対話から記事を作ってみませんか？”

NotebookLM